

使用テキスト

配本年度

『教育の制度と経営 15 講』 樋口修資著(明星大学出版部)
 『第2版 教育の制度と経営 15 講』 樋口修資著(明星大学出版部)

2020 年度
 2021 年度～

科目概要

わが国の学校教育制度の構造と特質を明らかにしつつ、学校が公教育の実現に向けて、組織としてまとまった活動を実施・展開することの重要性について考察します。

具体的には、憲法・教育基本法に基づく学校教育の編成原理、国と地方の役割分担と教育委員会制度、学校制度・就学制度の基本的枠組み、学校の組織編制と管理運営の在り方、教員の職務と身分、教育課程の編成・実施、生活指導・生徒指導の在り方、学校の保健安全管理などの諸課題について基礎的な理解を図り、必要な知識を幅広く習得します。

※本科目の学修に当たっては、教科書はもとより、参考図書も十分に活用しながら、主体的に学ぶ態度をもって、科目内容の知識と理解を深めるよう努めること。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 学校を中心とした教育制度と経営に関する状況・課題と将来展望、また公教育機関としての学校の社会的機能と役割等を自分自身の課題として理解し、それら基本的知識を身に付け、知識理解の基に説明できる。
2. わが国の教育制度・就学制度の基本的枠組み、学校の組織編制と管理運営の課題、教員の身分と服務、教育課程編成の意義と考え方、生徒指導の意義と役割などについて関心を持ち、それらについて必要な知識を身に付け、知識理解の基にきちんと説明できる。

■ 科目の学習要点事項

1. 憲法・教育基本法に基づく学校教育の基本的あり方
2. 教育における地方分権の意義と教育委員会制度の役割
3. 学校教育制度・就学制度の基本的仕組み
4. 学校の組織編制と管理運営の在り方
5. 学習指導要領に基づく教育課程編成・実施の意義
6. 生徒指導の基本的あり方
7. 学校保健安全管理の在り方

参考文献

「最新 教育の行政・制度と学校の管理運営」樋口修資著(明星大学出版部)

「教育の最新事情」樋口修資・吉富芳正・林一夫共著(明星大学出版部)

「教育行政学」河野和清編著(ミネルヴァ書房)

評価基準

■レポート評価

レポートの作成にあたっては、レポート課題が求める学習の要点を正しく理解し、その要点を中心に所定の文字数にまとめる。テキストの内容を基本にして客観的に論じること。参考図書等を図書館で閲覧して内容を深めると更によい。

■科目終了試験評価

科目終了試験は、科目の学習要点事項に示されている内容がどれくらい到達しているかを測るものである。テキストに示された理論を活用せず、自説のみ並べ立てても評価されない。それぞれの学習要点にかかわるテキストの記述を中心に、レポート課題に解答する際整理し、重要事項について理解を深めておくこと。

使用テキスト

配本年度

『教職入門—専門性の探究・実践力の錬成』青木秀雄編(明星大学出版部)
『第2版教職入門』青木秀雄編(明星大学出版部)

2014年度～2017年度
2018年度～

科目概要

教育と教職との関係を、主に専門性と実践力の視点を踏まえ、それら全般について論述する。教員養成の歴史を概観し、不安定な教師の立場における教職のアイデンティティの確立の困難性にも言及する。教師に求められる資質・能力と現代の教育改革、子どもを取り巻く環境について検討し、教師の役割と責任、教育愛などをめぐって、今後の学校と教師の課題について探求する。

その基本は、教師の人間としての在り方、専門職としての在り方を考えることになる。1回の人生を生きる子どもたちのために、教師には何ができ、何をすべきであるかを模索したい。そのために教師は、どのように成長し、またすべきなのか考察したい。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 現代のわが国の子どもの教育について、どのように学び、どのようにあるべきかを踏まえ、子どものために教師はどうあるべきかを考え、理解する。
2. 現代における教育者のあり方を考える。
3. 教師の仕事を理解する。
4. 子どものため、またよりよい学びと国家社会の形成のために、教師のあり方が重要であることを知る。
5. 教育者として、人間としての学びと成長の必要性を考える。

■ 科目の学習要点事項

1. 教育者についての基本的な理解
2. 教員養成の重要性
3. 教師の役割と責任
4. 教職の専門性
5. 現代の教師に求められている資質・能力
6. 自分の目指す教師像

参考文献

- 森下恭光編著(2009)『第2版 教師論—教職とその背景』明星大学出版
青木秀雄編(2013)『教職実践演習—磨きあい高めあい続ける熱意ある教師に』明星大学出版
姫野完治(2013)『学び続ける教師の養成—成長観の変容とライフヒストリー』大阪大学出版会
竹村哲(2012)『自己と関わりの創造学—セルフスタディの教育研究』大学教育出版
油布佐和子編著(2015)『現代日本の教師 — 仕事と役割 —』一般財団法人 放送大学教育振興会

■レポート評価

レポートの作成にあたっては、レポート課題が求める学習の要点を正しく理解し、その要点を中心にまとめること。その際、レポートの構成にあたっては、論理的に記述すること。『履修の手引』参照。

■科目終了試験評価

科目終了試験は、科目の学習要点事項に示されている内容がどれくらい達成されているかを判定するためである。出題範囲は広いが、それぞれの学習要点に関わるテキストの記述を整理し、重要事項について理解を深めておくこと。評価のポイントは、出題の主旨を理解し、キーワードや事項を捉えて正確に説明ができているかである。科目の学習要点事項を踏まえていない場合には、自らの経験や自説をいくら述べても評価されない。したがって、試験の採点は、「設題の要点を正しく理解し、その要点に即して論理的に記述する」内容面と「量的にもある程度の分量を記述すること」の両面から採点を行うことにしている。

使用テキスト

配本年度

『最新 教育の行政・制度と学校の管理運営』樋口修資著(明星大学出版部) 2015年度～2020年度
『背景と実態から読み解く教育行財政』樋口修資・神林寿幸・青木純一共著(明星大学出版部)

2021年度～

科目概要

国家行政の一作用としての「教育行財政」について、その歴史的沿革を踏まえながら、どのような制度的枠組みの中で成り立っているのか、その基本的構造の特質を明らかにする。このため、教育行財政の基本的事項について幅広く取り上げることとし、具体的には、我が国公教育制度の成立と発展、国と地方における教育行政と財政の基本的仕組み、学校制度や就学制度、学校の組織編制と管理運営、教職員の身分と服務、学校評価と公開、地域の参画などの現状と課題を明らかにし、今後の教育行政の方向性・あり方について講義する。

※本科目の学修に当たっては、教科書はもとより、参考図書も十分に活用しながら、主体的に学ぶ態度をもって、科目内容の知識と理解を深めるよう努めること。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

現代公教育制度の意義、役割および機能について基本的な理解を得させるとともに、国と地方の教育行政・学校経営の仕組み、学校制度の基本的枠組み、学校の組織編制と管理運営、教育課程管理、生徒指導の在り方など、教育行政と学校経営に関する総合的な知識と理解が深まる。

■ 科目の学習要点事項

1. 教育行政の基本構造とその特質
2. 憲法 26 条「国民の教育を受ける権利」
3. 教育基本法制定のねらいと改正の趣旨
4. 教育行政における国と地方の役割分担
5. 教育財政の仕組み
6. 我が国の学校制度と就学制度
7. 学校の管理運営についての教育委員会と学校との責任分担

参考文献

- ① 『最新 教育法の基礎』樋口修資著(明星大学出版部)
- ② 『現代の教育改革と教育行政』小川正人著(放送大教育振興会)
- ③ 『概説 教育行政学』平原春好著(東京大学出版会)
- ④ 『教育小六法』市川須美子他編(学陽書房)

評価基準

■レポート評価

レポートの作成に当たっては、テキストからレポート課題に関係した内容を選び、適切な分量にまとめること。その上で、できる限り、レポートの課題に関係のある参考文献にあたり、レポート内容の充実に努めることが望ましい。

上記の点に基づき、レポートが適切に記述・構成されているかを評価する。

■科目終了試験評価

科目終了試験では「科目の学習要点事項」に関連した内容を取り上げることとするので、試験の準備に当たっては、それぞれの事項に該当する内容を学習して、基本的な理解に努めること。

試験では、設問の意図を正確に把握し、要点となることをまとめているかどうかを評価する。まとめるに当たって、論理展開や考察が適切かどうかもあわせて評価する。

使用テキスト

配本年度

『最新 教育の行政・制度と学校の管理運営』樋口修資著(明星大学出版部) 2012年度～2020年度
『背景と実態から読み解く教育行財政』樋口修資・神林寿幸・青木純一共著(明星大学出版部)

2021年度～

科目概要

国家行政の一作用としての「教育行財政」について、その歴史的沿革を踏まえながら、どのような制度的枠組みの中で成り立っているのか、その基本的構造の特質を明らかにする。このため、具体的には、教育行政の「制度的事項」に加え教育課程行政の基本的枠組みと運用の実際、生徒指導の在り方、学校評価と教員評価、学校の保健安全管理と「学校事故」、学校情報の取り扱いと個人情報・情報公開とのかかわりなどの課題について、その現状と課題を明らかにし、今後の方向性等を考察する。

※本科目の学修に当たっては、教科書はもとより、参考図書も十分に活用しながら、主体的に学ぶ態度をもって、科目内容の知識と理解を深めるよう努めること。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

日本国憲法第26条に規定する「国民の教育を受ける権利」の意義を踏まえ、現代公教育制度の意義・役割および機能について基本的な理解を得させるとともに、国と地方の教育行政・学校経営の仕組み、学校制度の基本的枠組み、学校の組織編制と管理運営、教育課程管理、生徒指導の在り方など教育行政と学校経営に関する総合的な知識と理解が深まる。

■ 科目の学習要点事項

1. 学校の組織編制、学級編制・教職員定数
2. 教職員の身分と服務
3. 地域参画の学校運営のあり方
4. 学習指導要領と教育課程編成のあり方
5. 生徒指導の意義・役割
6. 学校における懲戒と体罰
7. 児童生徒の安全管理と学校事故

参考文献

- ① 『最新 教育法の基礎』樋口修資著(明星大学出版部)
- ② 『現代の教育改革と教育行政』小川正人著(放送大教育振興会)
- ③ 『概説 教育行政学』平原春好著(東京大学出版会)
- ④ 『教育小六法』市川須美子他編(学陽書房)

評価基準

■レポート評価

レポートの作成に当たっては、テキストからレポート課題に関係した内容を選び、適切な分量にまとめること。その上で、できる限り、レポートの課題に関係のある参考文献にあたり、レポート内容の充実に努めることが望ましい。

上記の点に基づき、レポートが適切に記述・構成されているかを評価する。

■科目終了試験評価

科目終了試験では「科目の学習要点事項」に関連した内容を取り上げることとするので、試験の準備に当たっては、それぞれの事項に該当する内容を学習して、基本的な理解に努めること。

試験では、設問の意図を正確に把握し、要点となることをまとめているかどうかを評価する。まとめるに当たって、論理展開や考察が適切かどうかもあわせて評価する。

科目概要

初等教育課程とは、幼児・児童の学習活動を踏まえて教育内容を体系立てて配列し、それによって学校教育の全体を現したものと見える。これを具体的に言えば、教師一人ひとりの、一つひとつの教育活動を学校教育全体の中に位置づけ、その教育活動に方向性を与えると同時に、逆にその教育活動によって組み立てられているものである。

『学習指導要領』(平成29年3月告示)では「第1章総則 第1 小学校教育の基本と教育課程の役割」として「1 各学校においては、教育基本及び学校教育法その他の法令並びにこの章以下に示すところに従い、児童の人間として調和のとれた育成を目指し、児童の心身の発達の段階や特性及び学校や地域の実態を十分考慮して、適切な教育課程を編成するものとし、これらに掲げる目標を達成するよう教育を行うものとする」。また、『幼稚園教育要領』においても、「第1章総則 第1 幼稚園教育の基本」の「第3 教育課程の役割と編成等 1 教育課程の役割」において「各幼稚園においては、教育基本法及び学校教育法その他の法令並びにこの幼稚園教育要領の示すところに従い、創意工夫を生かし、幼児の心身の発達と幼稚園及び地域の実態に即応した適切な教育課程を編成するものとする。」としている。

教育課程は、学習指導要領を基準(大綱的基準)としながら、各学校において編成するものである。そして編成とは、教育(内容)計画を、学校の仕事の個々(指導計画)または全体(教育課程)にわたって立案(構成)することと捉えることができる。つまり学習指導要領は、文科省が定め、子どもたちに授業などを行なう時の基準であり、また、国家が目指す人材の育成にもかかわる。そして、学校は学習指導要領に沿いながら教育の指導方針を定め、それを基に校長は授業時数等を決定し、その授業時数の中で「学習指導要領」の基準に従いながら、社会に求められる人材を教師が中心となって育成していく。

したがって日本においては、学習指導要領の歴史は教育課程の歴史といっても過言ではない。また、教育基本法や学校教育法なども同じように教育課程の性格に重要な影響を与えている。学習指導要領は、今まで8回にわたり改訂されてきたが、これらの改訂は中央教育審議会答申や教育基本法の改正を受けて行なわれてきたことに加えて、時代の流れや社会情勢、子どもの実態をもとにして教育のあるべき姿を反映させることで改訂されてきたととらえることができる。その意味で、学習指導要領の特徴を知ること、その時代の教育課程がどんな風であったかが理解でき、その頃の教育のあり方を知ることができる。

このことを踏まえて、ここでは学校教育における教育課程のもつ今日的意義を考える。教育課程が初等教育の歴史の中でどのように形成されてきたか、どのように解釈されているか等を中心に、教育課程の成立史やその基礎理論(思想と構造)を扱う。また、日本では教育課程の基準として学習指導要領が定められているが、その変遷(改訂)、性格、特徴などを明らかにする。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 教育課程(カリキュラム)に関する基本的な用語・知識・教育課程編成のわが国における歴史的変遷、新しい教育課程の開発や編成に関する基本問題を説明できる。
2. 戦後 20 年代の「新教育」のカリキュラム改革の特色、昭和 33 年以降の学習指導要領改訂版(昭和 33 年、43 年、52 年、平成元年、10 年、20 年の改訂版)に現れた顕著な特色について説明できる。
3. 教育課程の評価にはどのような意義・領域・役割があり、教育課程の評価をどのように用いるべきなのか、その評価の要点は何なのか、などを説明できる。

■ 科目の学習要点事項

1. 教育課程(カリキュラム)の意義(定義)
2. 各年版の学習指導要領の特徴
3. 教育課程の評価

参考文献

『小学校学習指導要領』文部科学省(東洋館出版社)平成 29 年3月告示

『小学校学習指導要領解説 総則編』文部科学省(東洋館出版社、平成 30 年 2 月発行)

田中耕治ほか編著(2009)『新しい時代の教育課程(改訂版)』有斐閣

天笠茂(2013)『カリキュラムを基盤とする学校経営』ぎょうせい

田村知子(2011)『実践・カリキュラムマネジメント』ぎょうせい

評価基準

■ レポート評価

レポートの作成にあたっては、レポート課題が求める学習の要点を正しく理解し、その要点を中心にまとめること。その際、レポートの構成にあたっては、論理的に記述すること。例えば、起・承・転・結や序論・本論・結論など、筋道立てて作成するようにしてください。

■ 科目終了試験評価

科目終了試験は、科目の学習要点事項に示されている内容がどれくらい達成されているかを判定するために行うものです。出題範囲は広いが、それぞれの学習要点に関わるテキストの記述を整理し、重要事項について理解を深めておくことが大切です。評価のポイントは、出題の主旨を理解し、キーワードや事項を捉えて正確に説明ができていのかどうかを中心に評価します。科目の学習要点事項を踏まえていない場合には、自らの経験や自説をいくら述べても評価されません。

したがって、試験の採点は、設題の要点を正しく理解し、その要点に即して論理的に記述すること、またある程度の量的な記述がなされていること、との両面から採点を行います。

使用テキスト

配本年度

『子どもと社会の未来を拓く-保育内容-総論(初版)』(青踏社) 近藤幹生編著

2019年度～

科目概要

保育(内容)を総論的に捉えることについて学びます。乳幼児の遊びや生活場面の一つを考えみても、複数の領域が絡み合い、総合性を持っています。保育実践においては保育内容の総合性を踏まえることが課題となり、各分野に関する専門知識・技術を身につけること、子どもや保育に関する幅広い視野を持つことが求められます。どのような保育を大切にしたいのか、自分なりの子ども観、保育観の基礎づくりの糸口になる科目です。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

保育士として培ってきた保育観、子ども観を改めて振り返り再構築するための知識・子ども理解、そして現代の保育課題等々理解し更に充実した保育をしていくための力量を身に付けている。

■ 科目の学習要点事項

○保育所保育指針における保育の基本 ○保育所・幼稚園・認定こども園の現状と課題 ○保育・幼児教育の思想家たちの功績 ○幼稚園・保育所制度の歩み ○特色のある保育内容を探る-戦前・戦後の保育内容の変遷
○保育所の一日-保育所で展開される生活と遊び ○幼稚園の一日-幼稚園で展開される生活と遊び-
○幼児連携型こども園の一日および多様な保育 ○教育課程・全体的な計画(教育課程)と指導計画について
○園と家庭の信頼関係 ○保育所・幼稚園・小学校における連携・接続の課題 ○地域の子育て支援のとり組み-子育て支援と保育内容-

参考文献

- ①『安心感と憧れが育つ ひと・もの・こと』齋藤政子編著
- ②『集団保育とこころの発達』近藤繁樹著 新日本出版
- ③『日本における保育カリキュラム 歴史と課題』宍戸健夫 新読書社

評価基準

■ レポート評価

テキストを読み、学習したうえで、レポート課題に向き合い私見が述べられているか。

■ 科目終了試験評価

テキストを基礎とした学習が進められ、理解されているかを評価する。

また、上記に加えて論述の論理的展開や考察が適切かどうかについても評価する。

使用テキスト

配本年度

『幼児理解からはじまる保育・幼児教育方法』 小田豊・中坪史典編 (建帛社)2015 年度～2020 年度
『幼児理解からはじまる保育・幼児教育方法 第2版』小田豊・中坪史典編 (建帛社) 2021 年度～

科目概要

本授業は、特例による幼稚園教諭免許状の取得に関わる「生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目」を構成している必修科目として位置づけられている。幼児の発達の姿については、保育学・心理学で取り上げられており、ここでは、集団の中での幼児の実態への理解を通じて幼稚園の中での育ちとはどういうことかとりあげる。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

幼稚園の中での幼児の一人一人の実態、幼児同士、保育者と幼児といった集団の中での幼児の実態への理解を通じて幼稚園の中での育ちとはどういうことかを知る。

■ 科目の学習要点事項

1. 先ず実践例の挙げてある各章のダイジェスト(pp.5～6)を読み、p.1より読み進め、再び pp.5～6 を読んでほしい。
2. 実践編の各著者は、序章の理論的枠組みを共通な視点として認識している。しかし、実際に事例にそくして論ずる場合、各著者の長年の保育実践と研究の中から得た知見をもとに、それぞれの解釈、意味づけをしている。学習を進める中で、履修者は、それぞれの著者の論ずるところの基となる考え方をさぐりつつ、実践編各章の考え方の類似性と相違点を探ることが読み解く際の鍵となる。またそれを見出すと、新たな興味を持って事例を読み返したくなるであろう。
3. テキストをきちんと通して読んでから、レポートの課題に答えないと、結局のところ、科目終了試験で合格点を取得することは、難しいと考えてほしい。テキストをきちんと読み通してから、このレポートに取り組み、再読を繰り返すことを通して、試験問題の解答を作成することができるように出題してある。

参考文献

- ①鯨岡峻、鯨岡和子『保育のためのエピソード記述入門』ミネルヴァ書房
- ②『発達』第68号 -保育を開くためのカンファレンス-ミネルヴァ書房
- ③河邊貴子『遊びを中心とした保育 保育記録から読み解く「援助」と「展開」』萌文書林
- ④青木久子 他『子ども理解とカウンセリングマインド 保育臨床の視点から』萌文書林
- ⑤戸田雅美『保育をデザインする』フレーベル館

評価基準

■ レポート評価

合格の基準は、ブラッシュアップの過程に基づいて、子どもに対する保育者の理解の変化を、学生の設けた視点に基づいて取り上げられていればよい。

■ 科目終了試験評価

試験問題で何が求められているかをよく考えて解答すること。用語の記憶の再現より幼稚園での幼児の理解がどれだけなされているかを見る。

使用テキスト

配本年度

- ①『社会福祉学(New Liberal Arts Selection)』平岡公一、杉野昭博、所道彦、鎮目真人(有斐閣)2014年度～
②『保育者のための子ども虐待対応の基本』保育と虐待対応事例研究会編著(ひとなる書房)2020年度～
①②は、セットで配本

科目概要

本科目では、①社会福祉の概念と対象、その方法について、子ども・障害・高齢・貧困といった各分野における人々の生活構造とその実際について、②子ども福祉および社会的養護の歴史的な成り立ちや法制度、現状の理解と諸問題への対応方法について、を学ぶことを課題とする。

学習上の目標

1. 社会福祉・子ども福祉・社会的養護における、学問・制度・実践体系について理解する
2. 社会福祉・子ども福祉・社会的養護における、概念・対象・方法について理解する
3. 社会福祉・子ども福祉・社会的養護の役割と課題
4. 子どもの成長・発達支援および家族支援の専門職(子育て・子育てを支える専門職)としての保育者・教師のあり方・および連携のありかたについて理解する

■ 科目の到達目標

上記学習上の目標を達成し、現場における保育・教育実践の担い手、および、ソーシャル・アクションの担い手となる力量を養う

■ 科目の学習要点事項

1. ソーシャルワークの展開
2. 福祉国家の形成と展開、社会政策・社会保障・社会福祉制度の概要
3. 貧困・低所得、子ども、障害者、高齢者、コミュニティの福祉的理解
4. ニード中心のケアとは何か

参考文献

- 『障害児者へのサポートガイド』新井英靖 2007(中央法規出版)
- 『明日の子供たち』有川浩 2014(幻冬舎)
- 『福祉社会学ハンドブック—現代を読み解く98の論点』福祉社会学会編 2013(中央法規出版)
- 『私たち抜きに私たちのことを決めないで 障害者権利条約の軌跡と本質』藤井克徳 2014(やどかり出版)
- 『社会福祉キーワード 補訂版』平岡公一編 2002(有斐閣)
- 『健康で文化的な最低限度の生活』柏木ハルコ(小学館)
- 『ちいさいひと 青葉児童相談書物語』來竹桃ジシ・水野光博・小宮純一(小学館)
- 『障害のある方への接遇マニュアル』東京都心身障害者福祉センター編集 2006 改訂版 ☆
- 『発達障害者支援ハンドブック 2015』東京都保健福祉局 2015 ☆
- 『知的障害・発達障害のある人への合理的配慮』坂爪一幸・湯汲英史 2015(かもがわ出版)
- 『陽のあたる家 生活保護に支えられて』さいきまこ(秋田書店)
- 『凍り付いた瞳』シリーズ ささやななえ(集英社)
- 『発達障害の子どもたち』杉山登志郎 2007(講談社)
- 『良い支援?』寺本晃久、岡部耕典、末永弘、岩橋誠治著 2008(生活書院)
- 『どんぐりの家』山本おさむ(小学館)
- 『児童養護施設運営指針』 ☆
- 『児童養護施設運営ハンドブック』 ☆
- 『乳児院運営指針』 ☆
- 『乳児院運営ハンドブック』 ☆
- 『母子生活支援施設運営指針』 ☆
- 『母子生活支援施設運営ハンドブック』 ☆
- ※☆印の付いているものは、ウェブページよりダウンロードが可能です。

評価基準

■レポート評価

1. 課題内容を適確に理解しているか
 2. 論理的・説得的な記述が行えているか
 3. 独自性のある意見が述べられているか
 4. テキスト学習以外に、調べ学習が行われているか
- の4点にもとづいて、評価する。

■科目終了試験評価

テキストを基礎とした学習が進められ、キーワード(定義の確認)や歴史的変遷に関する理解が得られているかを評価する。また、上記に加えて論述の論理的展開や考察が適切かどうかについても評価する。なお、テキスト『社会福祉学』の事項検索にある青字は、重要ワードであることを申し添える。その他、社会的養護の指針やハンドブックからも用語を出題する。

『子どもと地域と社会をつなぐ家庭支援論』加藤邦子・井原成男他(福村出版)

2019 年度～

科目概要

子ども家庭支援の意義と目的を理解し、保育の専門性を活用した子ども家庭支援の意義と基本を学ぶ。また、子ども家庭支援にかかわる体制を理解し、実際のニーズに応じた多様な支援の展開過程(インテーク・アセスメント・インターベンション・モニタリング・エバリュエーション・ターミネーション)とそこで用いられる技術、関連諸機関との連携・協力、地域資源の活用法、要保護児童等の支援、児童養護施設、母子生活支援施設、障害児支援施設等における家庭への支援の実際についても理解を深める。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 子ども家庭支援と保育の専門性についての基本的学びをとおして、当事者およびニーズと専門的支援の在り方についての理解を深める。
2. 実際のソーシャルワークのプロセスとそこで用いられる支援技術について知るとともに、実践力を養う。

■ 科目の学習要点事項

各章でとりあげられているトピックについて、その社会的背景や理論的背景、概念定義などを丁寧に理解することを通して、簡潔な論述ができるように学習を進めていきましょう。それぞれの理解を深める過程において、派生的に官公庁の白書や統計データ、行政資料、新聞記事などについて調べ学習を進めることで、トピックに関係するソーシャルワークの展開過程について理解を深めるよう心掛けてください。

参考文献

大豆生田啓友・太田光洋・森上史朗編 2014『よくわかる子育て支援・家庭支援論』ミネルヴァ書房

日本子どもを守る会『子ども白書』(各年版) 森の泉社

F・P・バイスティック著 尾崎新訳 2006『ケースワークの原則―援助関係を形成する技法』誠信書房

北島英治・副田あけみ・高橋重宏・渡部律子編 2010『ソーシャルワーク実践の基礎理論 改訂版』有斐閣

評価基準

■ レポート評価

1. 課題内容を的確に理解しているか
2. 論理的・説得的な記述が行えているか
3. 独自性のある意見が述べられているか
4. テキスト学習以外に、調べ学習が行われているか

の4点にもとづいて、評価する

■ 科目終了試験評価

テキストを基礎として参考文献などへの発展的学習が進められているかを評価する。また、上記に加えて論述の論理的展開や考察が適切かどうかについても評価する。

使用テキスト

配本年度

『新 保育士養成講座第7巻 子どもの保健』新保育士養成講座編纂委員会編(全国社会福祉協議会)

2014年度～2016年度

『改訂2版 新 保育士養成講座第7巻 子どもの保健』

新保育士養成講座編纂委員会編(全国社会福祉協議会) 2017年度～2019年度

『保育士養成講座⑦ 子どもの健康と安全』

新保育士養成講座編纂委員会編(全国社会福祉協議会) 2020年度～

科目概要

本講義では、保育に関わる専門家として子ども一人一人が健康に成長し順調な発達を遂げるために必要な保健活動の意義を理解し、子どもの身体発育および生理的・運動的・精神的機能の発達について学ぶ。また、集団における保育活動において、子どもの健康を保持・増進するために必要な子どもの保健の基礎的知識、乳幼児期に起こり易い疾病とその予防策、遭遇しやすい事故と安全管理の基礎的知識を習得する。更に、保育所における保健活動の計画および評価について学習する。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 子どもの身体発育や生理機能及び運動機能の発達と保健について理解する。
2. 子どもの各期の発育、発達に応じた健康増進の意義を理解し、保育活動における健康増進の方法について考える。
3. 子どもの疾病とその予防法および適切な対応について理解する。
4. 保育における環境及び衛生管理並びに安全管理について理解する
5. 子どもの健康に関する保健計画の作成手順および評価方法について理解する。

■ 科目の学習要点事項

1. 子どもの発育・発達と保健
 - (1)健康の概念と健康指標
 - (2)身体発育と保健
 - (3)生理機能の発達と保健
 - (4)運動機能の発達と保健
 - (5)精神機能(情緒、言語、社会性等)の発達と保健
 - (6)子どもの健康増進と保育環境
2. 子どもの疾病と保育
 - (1)子どもの健康評価
 - (2)子どもに日常みられる症状
 - (3)子どもの主な疾病の特徴
 - (4)子どもの疾病の予防と適切な対応
 - (5)個別的な配慮を必要とする子どもへの対応

3.感染症の予防と対応

- (1)感染症の種類と特徴
- (2)感染症の予防
- (3)対策
- (4)予防接種

4.保育環境の衛生・安全管理

- (1)保育現場における衛生管理
- (2)保育現場における事故防止及び安全対策並びに危機管理
- (3)子どもの事故の特徴
- (4)応急処置と救急処置

5.保育所における保健計画の作成と活用

- (1)保健計画の作成手順
- (2)保健計画の活用および評価

参考文献

- ①「新 基本保育シリーズⅡ 子どもの保健」松田博雄,金森三枝編著(中央法規)2019
- ②「子どもの保健と支援」平山宗宏編著(日本小児医事出版社)2017
- ③「子どもの保健」第7版 巷野悟郎編著(診断と治療社)2018
- ④「保育者・養護教諭を目指す人のための子どもの保健～健康と安全～」小國美也子編著(日本小児医事出版社)2018
- ⑤「子どもの保健実習 すこやかな育ちをサポートするために」第3版 兼松百合子他編著(同文書院)2020

評価基準

■レポート評価

1. テキストや参考文献に書かれている用語の定義、概念などを理解した上で、それらを適切に使用して論述されているか。
 2. レポート課題の要点が適切に述べられているか。
 3. 自分が何を述べたいのかを明確にし、論旨が順序よく展開されているか。
 4. 自分の考えと引用文献の内容と混同することなく表現されているか。
- ※以下のようなレポートは再提出となる
1. 所定の文字数を守っていないレポート
 2. ほとんどがテキストの写しで自分の考えが述べられていないレポート
 3. 他の受講生のレポートと類似しているレポート

■科目終了試験評価

1. 問題文の意図を理解し、要点が適切に論述されているか。
2. 用語の使い方が適切か。

使用テキスト

配本年度

- 『最新 子どもの食と栄養—食生活の基礎を築くために—(第7版)』 2014年度～2016年度
飯塚美和子 桜井幸子 瀬尾弘子 曾根眞理枝 木村勝子(学建書院)
- 『最新 子どもの食と栄養—食生活の基礎を築くために—(第8版)』 2017年度～2020年度
飯塚美和子 桜井幸子 瀬尾弘子 曾根眞理枝 木村勝子(学建書院)
- 『最新 子どもの食と栄養—食生活の基礎を築くために—(第9版)』 2021年度～
飯塚美和子・瀬尾弘子・濱谷亮子(学建書院)

科目概要

小児期の望ましい栄養摂取と食生活は身体の発育のみならず、発達において重要な意義をもつ。本科目では小児期の栄養的特徴ならびに子どもの栄養、食生活を支援する保育者の役割を学び、子どもたちの食生活の基礎を築くために必要な知識を学ぶ。本科目に関連するガイドラインに目を通し、最新の情報を得ることを期待する。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

- 栄養に関する基本的な知識が身に付く。
- 乳幼児期の心身の成長と栄養・食生活の関連について理解が深まる。
- 小児期疾患の特徴と食生活上の留意点について理解が深まる。
- 子どもを取り巻く食環境と食生活の問題点について理解が深まる。
- 子どもたちが望ましい食生活を実現するための知識と具体的な支援方法が身に付く

■ 科目の学習要点事項

- ・乳幼児期の発育・発達の特徴
- ・乳幼児期の食生活の特徴と食事の実態
- ・母乳栄養と人工栄養の特徴
- ・人工栄養の調乳方法
- ・離乳食の意義と、離乳食の進め方
- ・幼児期の栄養・食生活上の問題
- ・小児期疾患(発熱・下痢・う蝕・食物アレルギー等)の発症機序と食生活
- ・発育・発達に応じた食育
- ・児童福祉施設における食事と栄養
- ・保育所における食育に関する指針

参考文献

- ① 『幼稚園教育要領』(文部科学省)
- ② 『保育所保育指針』(厚生労働省)
- ③ 『楽しく食べる子どもに～保育所における食育に関する指針～』(厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課長)

評価基準

■レポート評価

教科書・参考書の記述をそのまま転記し提出することは原則として認めない。課題に求められる内容を理解した上で必要な事柄を明瞭かつ簡潔にレポートを記すこと。表など、教科書、参考書等の記述内容を引用する場合は出典を明記すること。

レポートを評価する際の基準。

業務上の体験、経験に基づく主観的な内容やインターネット記事の転用等は不合格とする。

子どもの発育発達の特徴や食生活について、ガイドライン、関連法規、指針等を調べ、根拠に基づく内容を自分の言葉でまとめていることが合格の条件となる。

■科目終了試験評価

業務上の経験や主観を記すのではなく、出題の意図に沿い、テキストの内容・用語・概念を正しく理解した上で解答すること

科目終了試験の採点基準について例を挙げて説明する。

「〇〇期の A と B について述べよ。」という設問に対し、設問に求められていない当該時期の発育発達の特徴を漠然と記しても採点の対象とはならない。A、B について、根拠に基づき正確な内容が記載されていることが、単位付与の条件となる。問題文を正しく理解した上で出題の意図に沿った解答を記すこと。